

**新・公立宇出津総合病院改革プラン
自己点検、自己評価書
(令和元年度分)**

令和2年10月

新改革プラン評価委員会

はじめに

総務省より平成26年度に「新・公立病院改革ガイドライン」が通知されたことにより、新・公立宇出津総合病院改革プランを平成28年度に策定いたしました。これにより、病院機能の見直しや、病院事業の経営の改革に取り組み、そのプランを住民に対して速やかに公表するとともに、自己点検及び自己評価書を作成し、有識者や地域住民の参加を得て設置した評価委員会に見直し等をするなどして、評価の客観性を確保することとなりました。

今回、新・公立宇出津総合病院新改革プランの自己点検と自己評価を行ったことから、その結果を報告いたします。

なお、評価に当たっては、次の方法により行いました。

数値目標に対する評価

区 分	評価の内容
A	目標達成値が100以上の場合
B	目標達成値が95以上で100未満の場合
C	目標達成値が95未満の場合

※目標達成値＝実績値÷目標値×100

※目標数値が低いほど経営状況が良い場合(人件費比率等)は、目標値を実績値に除する数値を目標達成値とした。

取組状況に対する評価

区 分	評価の内容
A	評価取組にあげた取組は、達成した。
B	評価取組にあげた取組は、一部達成した。
C	評価取組にあげた取組は、達成できなかった。

今後も地域の基幹病院として、町民の命と健康を守り、安定した医療を継続して提供するため、経営改善の取り組みを強化し、改革プランの目標達成に向け努力いたします。

1 医療機能等指標に係る数値目標

(ア)一般病床の平均在院日数

(単位:日)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
16.6	19日以内	18.0	100	A	19日以内

【令和元年度自己評価】

平均在院日数は、18日と、数値目標の19日以内を達成しました。

(イ)地域包括ケア病床の在宅復帰率

(単位:%)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
87.4	90.0	90.4	100	A	90.0

【令和元年度自己評価】

在宅復帰率は、昨年度同様、目標数値の90%を達成しました。

(ウ)救急搬送受入件数

(単位:件)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
525	500	441	88	C	500

【令和元年度自己評価】

救急搬送受入件数は、84件減となりました。これは、宇出津分署の救急出動件数の減によるものです。

(エ)オープン検査件数

(単位:件)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
35	50	38	76	C	50

【令和元年度自己評価】

オープン検査件数については、昨年度より3件の増となったが、数値目標には、届かなかった。

(オ) 訪問看護実人数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
32	40	31	89	C	40

【令和元年度自己評価】

介護力の低下(高齢者世帯、独居高齢者、老々介護、認知介護)により家族の負担が増加し、施設入所希望者が多いのが現状であり、在宅に対する考え方が定着せず、ターミナル期の在宅が困難となっておりますが、患者増に備えて今後も引き続き訪問看護体制を整えます。

(カ) 訪問看護延人数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
744	980	849	87	C	980

【令和元年度自己評価】

訪問看護延人数は、昨年度比較で105人の増加となった。医療依存度の高い患者の訪問回数が増加したことで、訪問看護延人数が増加に繋がった。

2 経営指標に係る数値目標

(ア) 経常収支比率(経常収益/経常費用) (単位:%)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
102.0	103.0	103.5	100	A	103.0

【令和元年度自己評価】

収益では、整形外科患者1人当たりの外来単価の増加により収益が向上となった。また給与費では、退職特別負担金の減や、電子カルテシステムの減価償却費の減少により経常収支比率が1.5%上昇となった。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、多額の収益の減少が不安材料となっている。

(イ) 医業収支比率(医業収益/医業費用) (単位:%)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
89.2	92.0	94.5	103	A	92.0

【令和元年度自己評価】

医業収支比率は、昨年度より5.3%上昇となった。医業収益は、外来収益が増加し、医業費用は、給与費及び減価償却費の減少が医業収支比率の上昇となった。

(ウ) 人件費比率(職員給与費対医業収益比率) (単位:%)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
59.6	57%以下	56.7	100	A	57%以下

【令和元年度自己評価】

人件費比率は、職員3名の減少により2.9%低下し、目標数値57%以下となった。

(エ) 後発医薬品比率 (単位:%)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
30.1	27.0	29.6	112	A	30.0

【令和元年度自己評価】

後発医薬品比率は、昨年度より0.5%減少となった。令和元年度は、汎用されている注射剤で6剤をオーソライズドジェネリックに切り替えた。

(オ)新入院患者数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
1,934	1,950	1,696	87	C	1,950

【令和元年度自己評価】

新入院患者数は、238人の減少し、内科で192人の減となった。

(カ)病床利用率

(単位:%)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
73.1	90.0	83.6	93	C	90.0

【令和元年度自己評価】

病床利用率については、平成31年4月から病床数20床を減としたことで、病床利用率が10.5%上昇となったが、入院延べ患者数は1,405人の減となった。

(キ)維持透析患者数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
43	45	44	98	B	45

【令和元年度自己評価】

令和元年度の維持透析患者数は、5人透析導入され、1人転院となった。今後も45人の患者受入体制を行います。

(ク)早期リハビリテーション加算算定単位数

(単位:単位)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
6,860	6,800	6,605	97	B	6,800

【令和元年度自己評価】

算定単位数は、255単位減少した。これは入院患者の減少により、算定単位数が減少した。

(ケ)常勤医師数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
16	15	16	107	A	15

【令和元年度自己評価】

令和元年度の常勤医師数は、16人で目標を達成した。

(コ)認知症ケア加算対象の看護師数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
19	21	19	90	C	21

【令和元年度自己評価】

認知症ケア加算について看護師については、昨年同様19名となった。

(サ)セラピスト数 (理学療法士、作業療法士)

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
5	6	6	100	A	6

【令和元年度自己評価】

理学療法士1名を採用し、目標を達成した。

(シ)薬剤師数

(単位:人)

平成30年度 実績	令和元年度		目標 達成値	評価	令和2年度 目標
	目標	実績			
4	4	4	100	A	4

【令和元年度自己評価】

令和元年度の薬剤師数は4人で、目標を達成した。

3 目標達成に向けた具体的な取組

(ア) 民間的経営手法の導入

目標項目	評価取組	評価
医療機器保守契約更新の見直し	・医療機器保守契約更新については、その都度協議を行い協議する。	A

【令和元年度自己評価】

医療機器保守契約は器械ごとに検証し、そのうえで保守契約を締結した。

目標項目	評価取組	評価
給食委託について	・栄養管理室と給食委託の可否について協議する。	A

【令和元年度自己評価】

昨年度、計画を見直し業務委託は行わないこととした。今後は今まで以上に近隣の施設との連携を強化する方向とし、事故に備える。

目標項目	評価取組	評価
検査委託範囲について	・委託検査から院内検査への取込み、新規実施検査を行う。 ・臨床検査適正化委員会を年2回開催し、各科の医師や医療スタッフと検査委託について協議する。	B

【令和元年度自己評価】

臨床検査適正委員会を年2回開催し、検査室の運営や検査委託について協議いたしました。令和元年8月に、トロポニンTを定性から高感度定量法に移行しました。高感度PSAの院内検査への取り込みとHBs高感度定量法への変更を令和2年度から実施する予定です。

(イ) 事業規模・事業形態の見直し

目標項目	評価取組	評価
病床利用率 90% 超えの達成に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病床数(20床)のベッドコントロールを行い、地域包括ケア病床利用率85%を目指し、全体の病床利用率の上昇を目指す。 ・病床利用率 90% 越えの達成。 	B

【令和元年度自己評価】

地域包括ケア病床のベッドコントロールを行い、包括ケア病床利用率は 87.6%となった。しかし急性期病床の利用率は 73.4%により、全体の病床利用率は 83.6%となった。

目標項目	評価取組	評価
地域包括ケア病床の増床について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病床利用率 85%以上の達成。 	A

【令和元年度自己評価】

平成 31 年 4 月から地域包括ケア病床は、6 床増床して 20 床となった。地域包括ケア病床利用率も 77%から 87.6%となり目標を達成した。

(ウ) 経費削減・抑制対策

目標項目	評価取組	評価
後発医薬品への切替促進について	<ul style="list-style-type: none"> ・院内採用薬品については、後発医薬品に変更可能なものは、順次切替えを進める。 	A

【令和元年度自己評価】

汎用されている注射剤で6剤をオーソライズドジェネリック(AG)に切り替えた。令和2年度の評価取組は、後発医薬品(GE)の中でもAGのある薬品を変更し、前年度後発医薬品比率の上昇を目指します。

目標項目	評価取組	評価
同種同効薬剤の一本化について	<ul style="list-style-type: none"> ・院内薬事委員会は 2 回以上開催し、同種同効薬剤を整理し、採用薬の削減に努める。 ・同種同効薬剤の一本化を図る。 	B

【令和元年度自己評価】

使用頻度の少ない薬剤は、その都度整理しているが同種同効薬の整理は、出来ていない。同一の成分薬については、一方を院外専用薬品とし、院内採用の一本化を図った。

目標項目	評価取組	評価
退職職員を非常勤職員切替について	・退職職員の中から非常勤職員を採用し、医療経験豊富な職員を引き続き雇用する。	A

【令和元年度自己評価】

退職者で希望する職員については再任用及び非常勤職員として採用した。再任用職員についても年齢等で区切り、一部を非常勤職員として採用した。

(エ) 収入増加・確保対策

目標項目	評価取組	評価
各種加算項目の見直し及び取得について	・認知症ケア加算2からケア加算1の取得。	C

【令和元年度自己評価】

認知症ケア加算1は、認知症ケアチームの立ち上げがうまくできず、取得出来なかった。令和2年度は、各職種部門とのケアチームの立ち上げについての協議や、カンファレンスの実施また、せん妄ハイリスク加算の取得を目指す。

目標項目	評価取組	評価
透析需要増への対応	・需要が増となった場合、看護師の配置や透析診療日等について協議する。	—

【令和元年度自己評価】

令和元年度は、透析需要の増はなかったため、評価しておりません。

目標項目	評価取組	評価
看護基準 10 対 1 の堅持	・看護師数、勤務時間の調整、看護必要度の 15%をクリア ・看護必要度院内評価者研修を参加させ、院内研修会を行う。	A

【令和元年度自己評価】

看護必要度院内評価者研修を 4 名参加させ、全看護師と作業療法士、薬剤師 1 名が院内研修を受け知識向上を図った。また看護必要度は 21.1%で看護基準をクリアした。令和 2 年度は、診療報酬改定で看護必要度の基準が 18%以上となるため、数値目標を変更する。

目標項目	評価取組	評価
認知症ケア加算1の取得について	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアチームの立ち上げ。 ・週一回程度のカンファレンス及びラウンドの実施。 ・認知症ケアに関する研修の開催。 	B

【令和元年度自己評価】

認知症ケアに関する研修を行ったが、認知症ケアチームの立ち上げは、うまく行うことができなかった。令和2年度は、認知症ケアチームの立ち上げについて、各職種部門の方と協議し、認知症加算1の取得について取り組む。

(オ)その他

目標項目	評価取組	評価
薬剤師修学資金の貸与の促進について	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習に参加された中高生に対し、薬剤師修学資金について説明を行う。 ・金沢大学、北陸大学に薬剤師修学資金のパンフレット等で、募集の周知を行う。 	A

【令和元年度自己評価】

体験学習に参加した中高生に対し薬剤師修学資金について説明を行った。金沢大学、北陸大学の薬学部を訪問し、薬剤師修学資金の説明及び募集の周知を行った。

目標項目	評価取組	評価
紹介状ありの患者様の優先診察について	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介状のある患者様については、紹介状を総合窓口、外来窓口で提出してもらうことで、優先診察を行っているという情報の発信を行う。 	A

【令和元年度自己評価】

紹介状をお持ちの患者様についての情報は、総合窓口及び各診療科窓口掲示物で発信し、今後も患者様に情報を発信いたします。

(カ)職員の意識改革

目標項目	評価取組	評価
病院長の医局員への指導体制の充実について	<ul style="list-style-type: none"> ・加算体制に応じた基準の確認や、病院内のルール徹底、医療事故防止等の観点から、これまで以上に病院長の医局員に対する指導体制を強化する。 	A

【令和元年度自己評価】

医局会や各委員会の席上において、院内のルール及び医療事故や感染防止また、加算基準の確認など医局員に指導した。

目標項目	評価取組	評価
各科症例検討会及び 医師会合同症例検討 会の拡充について	・クリニカルラウンド等により、能登北部医療圏の医療機関と 症例検討会を行うことにより、連携を密にし、地域医療の推 進を図る。	A

【令和元年度自己評価】

令和元年度は、クリニカルラウンドを8回実施し、医師研修医を含め延べ45人が能登北部医療圏の医療機関と症例検討会に出席し、地域医療の推進を図った。

目標項目	評価取組	評価
目標管理及び意識改 革を目的とした各部門 ミーティングの実施につ いて	・改革プランワーキンググループ会議を、年2回開催し、各職 種部門のミーティングを実施し、数値目標や取組状況につ いて点検、確認を行う。	A

【令和元年度自己評価】

改革プランワーキンググループ会議を開催し、数値目標や取組状況について、数値目標の点検や確認を行った。

目標項目	評価取組	評価
職員研修機会の拡充 について	・接遇研修、医療安全、感染研修、e-ランニングの実施。 ・看護師ファースト、セカンドレベル研修の実施。 ・認知症看護研修の実施。	A

【令和元年度自己評価】

接遇研修(年1回)、医療安全研修(年2回)、感染研修(年2回)の実施はもちろん、看護師ファーストレベル研修(1名)、認知症看護研修(5名)の職員研修を行った。

目標項目	評価取組	評価
経営状況や直面してい る諸問題の、全職員の 共通認識する情報発 信について	・経営状況説明会を年2回開催し、その中で、経営状況や諸 問題を、全職員に情報を発信する。 ・病院幹部や町幹部には、経営改善会議を2回開催し、経営 状況や諸問題について、情報を発信する。	A

【令和元年度自己評価】

町長をはじめとした、町幹部に病院経営改善会議を2回開催し、また病院職員には経営状況説明会を開催し、情報の発信を行った。